

2014 年度 後期

# 東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設されたが、今年度で11年目を迎え、これまで数多くの卒業生を社会に送り出すことができた。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律、倫理といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEBサイトで公開している<sup>1</sup>。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本大学院の卒業生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

公認会計士試験受験者の減少、監査法人への就職状況の変化、会計制度の変更など、会計大学院をめぐる環境変化は著しい。そうした環境変化に対応するべく、本大学院では2015年度に大幅なカリキュラム改編を実施している。今後もカリキュラムや授業等に関するアンケートを継続的に実施し、カリキュラム改編の効果等の分析結果を教育サービスの改善に反映したいと考えている。

2015年5月13日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

---

<sup>1</sup> <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2015a.html>

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2015年1月6日から1月26日の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料 1）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義について実施し、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」の科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目 21 の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

#### 3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2014年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「財務諸表分析」（会計大学院学生の履修者27名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は23である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。これは、会計大学院の在籍学生数の3割程度であるため、会計大学院全体の動向を反映していない可能性もあるが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなると考える。

#### 3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近8年度分の推移を示す。以下に掲載したうち、2006年度には前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の都合上ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者は全て会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声を反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
適切である	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%	50.00%	39.47%	35.71%	61.90%	65.22%
ほぼ適切である	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%	40.00%	31.58%	35.71%	28.57%	17.39%
どちらともいえない	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%	5.00%	26.32%	17.86%	0.00%	8.70%
やや不適切である	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%	5.00%	2.63%	10.71%	9.52%	8.70%
不適切である	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	28	21	23

設問3： Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
適切である	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%	31.58%	18.42%	31.03%	55.00%	47.83%
ほぼ適切である	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%	26.32%	23.68%	31.03%	30.00%	21.74%
どちらともいえない	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%	15.79%	18.42%	20.69%	10.00%	17.39%
やや不適切である	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%	15.79%	28.95%	13.79%	5.00%	8.70%
不適切である	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%	10.53%	10.53%	3.45%	0.00%	4.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	50	60	30	42	19	38	29	20	23

設問4： オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
5回以上	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%	25.00%	10.53%	6.90%	13.04%	21.74%
4回または3回	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%	10.00%	2.63%	17.24%	13.04%	13.04%
2回	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%	0.00%	10.53%	3.45%	4.35%	4.35%
1回	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%	10.00%	10.53%	27.59%	13.04%	21.74%
利用しなかった	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%	55.00%	65.79%	44.83%	56.52%	39.13%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	49	61	30	42	20	38	29	23	23

設問5： Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
役に立った	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%	40.00%	23.68%	13.79%	60.00%	69.57%
まあまあ役に立った	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%	5.00%	36.84%	37.93%	25.00%	21.74%
どちらともいえない	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%	30.00%	23.68%	24.14%	10.00%	4.35%
あまり役に立たなかった	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%	5.00%	7.89%	17.24%	0.00%	0.00%
役に立たなかった	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%	20.00%	7.89%	6.90%	5.00%	4.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	60.00%	100%
総数	50	60	30	42	20	38	29	20	23

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
適切である	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%	25.00%	10.53%	24.14%	18.18%	52.17%
ほぼ適切である	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%	15.00%	23.68%	17.24%	45.45%	4.35%
どちらともいえない	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%	55.00%	34.21%	41.38%	27.27%	26.09%
やや不適切である	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%	5.00%	18.42%	10.34%	9.09%	13.04%
不適切である	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%	0.00%	13.16%	6.90%	0.00%	4.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	29	22	23

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
5 時間以上	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%	40.00%	43.24%	35.71%	25.00%	27.27%
4-5 時間	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%	5.00%	10.81%	17.86%	15.00%	18.18%
3-4 時間	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%	25.00%	8.11%	10.71%	15.00%	18.18%
1-3 時間	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%	5.00%	24.32%	17.86%	15.00%	13.64%
1 時間未満	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%	25.00%	13.51%	17.86%	30.00%	22.73%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	49	60	30	41	20	37	28	20	22

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
役に立った	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%	60.87%
まあまあ役に立った	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%	21.74%
どちらともいえない	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%	13.04%
あまり役に立たなかった	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	4.35%
役に立たなかった	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	55.00%	100%
総数	48	60	29	42	20	38	29	20	23

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
考えている	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%	63.16%	59.46%	48.28%	55.00%	47.83%
まだ決めていない	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%	10.53%	10.81%	13.79%	20.00%	21.74%
考えていない	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%	26.32%	29.73%	37.93%	25.00%	30.43%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	48	58	29	42	19	37	29	20	23

設問 10 : OB 会について (この設問は 2007 年度に追加したものである.)

選択項目	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
賛成	51.72%	66.67%	57.14%	80.00%	78.38%	67.86%	65.00%	86.96%
反対	6.90%	3.70%	2.38%	5.00%	2.70%	10.71%	10.00%	4.35%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%	15.00%	18.92%	21.43%	25.00%	8.70%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	58	27	42	20	37	28	20	23

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、問題点を抽出するとともに、対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答をしてもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は、82.61%であり、科目配置のバランスは概ね適切であると考えられる。

設問3（Semester間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は約70%である。昨年度の水準は下回ったものの、依然として高い水準を維持している。しかし、「やや不適切である」が8.70%、「不適切である」が4.35%と、Semester間の科目配置のバランスが悪いと考える学生もいるようである。学生が受講したいとする科目が前期あるいは後期に集中しないように配慮する努力が必要である。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ傾向が示された。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が6割程度いるのはこれまでと同じ傾向である。個人面談でも学生に質問しているが、教員に質問のある学生はほとんどの場合授業後に教員に相談に行き、別途オフィスアワーを利用することは少ないようである。他方で、3回以上利用している学生は30%を超えており、オフィスアワーの重要性が高いともいえる。

設問5（個人面談）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が90%を超えており、効果が高いことが示唆された。Semesterごとに1回、面談を設けることは学生と教員のコミュニケーションを確保する重要な機会になっており、今後も継続していく必要があると考える。

設問6（GPAによる評価）では、「適切」と「ほぼ適切」の合計が56.52%であり、半数の学生はGPAによる評価に納得しているようである。ただし、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が20%近くになっており、GPAによる評価を好ましく思っていない学生も存在する。学生を多面的に評価するシステム構築は困難であることから、今後もGPAによる評価を継続せざるを得ないとするが、定期的に成績評価基準の見直し等を行う必要はあると考える。

設問7（受験勉強にかける時間）では、5時間以上かける者の割合が27.27%と非常に低い水準にある。近年は会計大学院の進学者であっても、公認会計士や税理士ではなく、民間企業への就職を選択する学生が増加していることを反映していると考えられるが、面談等を通じて継続的に受験勉強時間の確保等の指導を行う必要がある。

設問8（email, WEBを用いた連絡システム）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が80%を超えており、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、「考えている」者の割合は減少傾向が続いており、本年度は47.83%と半数を下回る水準となった。過年度の調査でも明らかにされているとおり、本会計大学院の学生の進路は多様化してきていると考えられる。

#### 4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

##### 4.1. アンケートの実施状況

2014年度後期における開講講義数は57科目であり、そのうち30科目についてアンケートが実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	17	8
財務諸表	22	18
原価計算2	23	19
簿記2	28	23
情報システム設計	16	13
監査計画の編成法1	8	6
内部統制の実務	5	2
財務諸表分析	27	23
上級財務諸表分析	7	6
事例研究（法人税法）	5	5
上級証券取引行政	5	5
財務行政	6	6
上級企業法	5	4
ビジネス・プレゼンテーション1	7	7
ビジネス・プレゼンテーション2	2	1
監査制度	19	16
上級監査制度	8	7
組織と人材	6	6
事例研究（経営管理）	7	7
事例研究（管理会計）	7	6
上級財務会計	9	9
公会計1	12	9
事例研究（会計職業倫理）	6	3
事例研究（国際会計基準）	6	4
金融論	9	7
消費税法	6	4
マーケティング	5	4
企業不正リスク管理	7	6
公会計2	11	9
環太平洋経営事情	8	7
合計	309	250

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数309名に対して250名から回答を得た。アンケートの回答率は80.90%であり、前回（2014年度前期、90.07%）よりも若干減少している。結果の信頼性には影響しない水準であるが、授業アンケートの実施体制についての周知を徹底し、回収率を改善したいと考えている。なお、質問項目21は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。



#### 4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	74	210	22	22	39	95	191	215	213	205	198	179	208	154	190	43
4	136	21	14	14	26	117	41	26	29	37	39	51	34	38	43	38
3	25	7	13	18	29	31	16	5	6	6	9	14	4	37	8	54
2	4	3	30	32	27	6	1	1	0	1	3	2	1	12	2	119
1	5	5	77	90	58	0	0	2	1	0	0	2	2	6	3	15
0	4	-	92	73	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
合計	248	246	248	249	243	249	249	249	249	249	249	248	249	247	246	310
平均値	4.04	4.74	1.38	1.50	2.05	4.21	4.69	4.81	4.82	4.79	4.73	4.63	4.79	4.30	4.69	2.52
中央値	4	5	1	1	1.5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
最頻値	4	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.95	0.91	1.58	1.54	1.86	0.75	0.60	0.56	0.49	0.49	0.58	0.76	0.57	1.05	0.80	1.49

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）から設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。

過年度と同様であるが、設問3～5の平均値からは会計大学院の授業に関連する勉強時間が少ない傾向にあることがわかる。ただし、設問3～5の標準偏差は他の質問項目のそれに比べて大きいため、学生間あるいは講義科目間でバラツキがあるといえる。事前に準備が必要な講義科目では予習時間が多くなり、知識や技術を修得するような講義科目では復習時間が多くなると考えられる。とはいえ、予習、復習、宿題にかかる時間は少ないことから、いずれかにおいてももう少し学習時間を確保させるような工夫が必要であると考えられる。



#### 4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答者については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2と3の資格を持つ回答者は資格の値を5として相関係数を計算している。なお、表2の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.144	1														
3 予習	-0.071	0.132	1													
4 復習	0.008	0.111	<b>0.774</b>	1												
5 宿題	0.028	0.092	<b>0.551</b>	<b>0.548</b>	1											
6 理解	0.107	0.032	0.266	0.282	0.205	1										
7 難易度	0.162	-0.045	0.244	0.234	0.261	0.426	1									
8 教員準備	0.029	0.080	0.099	0.124	0.167	0.296	0.423	1								
9 プレゼン	0.007	-0.038	0.083	0.082	0.162	0.330	0.434	<b>0.761</b>	1							
10 教材	0.088	-0.014	0.177	0.172	0.135	0.351	<b>0.534</b>	<b>0.503</b>	<b>0.443</b>	1						
11 評価方法	-0.024	-0.053	0.193	0.206	0.185	0.275	0.375	<b>0.659</b>	<b>0.615</b>	0.456	1					
12 シラバス	0.022	-0.018	0.229	0.275	0.215	0.308	0.404	0.449	0.474	0.440	<b>0.600</b>	1				
13 教員評価	0.098	0.056	0.203	0.210	0.237	0.295	<b>0.515</b>	<b>0.532</b>	<b>0.595</b>	0.494	0.499	0.450	1			
14 対試験	-0.050	0.025	0.154	0.300	0.214	0.275	0.312	0.236	0.185	0.228	0.277	0.262	0.157	1		
15 キャリア	0.029	-0.042	0.112	0.048	0.183	0.213	0.293	0.219	0.245	0.213	0.328	0.288	0.357	0.124	1	
16 資格	0.025	-0.041	-0.079	-0.097	0.002	-0.031	0.039	0.066	0.065	0.143	-0.030	-0.012	0.049	-0.063	0.026	1

表3：質問項目数の相関関係

設問3（予習）と設問4（復習）と設問5（宿題）の間でそれぞれ比較的高い正の相関が観察される。これは過年度と同様の傾向である。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行い、また宿題にかかる時間も多しを示している。

次に、設問6（理解）～設問15（キャリア）の間で相互に高い正の相関が観察される場合がある。これらの設問は会計大学院の講義に対する評価に関するものであり、相互に比較的高い正の相関があることは過年度と同様である。次の項目間には特に高い正の相関（0.5以上）が観察される。講義の難易度の適切さ（設問7）は、テキストなどの教材（設問10）や教員の評価（設問13）と高い正の相関が観察される。また、教員の準備（設問8）は、教員のプレゼンテーション（設問9）、テキストなどの教材（設問10）、成績評価の適切さ（設問11）と高い正の相関が観察される。さらに教員のプレゼンテーション（設問9）は、成績評価の適切さ（設問11）と教員の評価（設問13）と高い正の相関があり、成績評価の適切さ（設問11）はシラバスの充実度（設問12）と高い正の相関があることが観察された。これらの結果を踏まえると、教員が講義に対してしっかりと準備すること（設問8）はとりわけ重要であり、これによって会計大学院の講義に対する評価が全体として高くなることが期待されるといえる。

さらに、設問3～設問5の設問群と設問6～設問15の設問群の間では、あまり相関が高くないことがわかる。この点については、様々な要因が絡んでいるためはっきりとしたことは言えないが、会計大学院の授業関連の勉強時間と、授業に対する評価の間にはあまり強い関係が見られないということである。

以上、設問間の相関からは過去と同様の結果が得られた。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のホームページを参照されたい（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2015a.html>）。

#### 4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

##### 設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
公認会計士コース（2年）	35.57%	22.69%	38.73%	24.47%	49.34%	34.29%	38.24%	29.84%
公認会計士コース（1年）	54.62%	70.45%	53.29%	61.70%	41.69%	51.07%	40.44%	54.84%
会計リサーチコース	4.20%	4.78%	3.76%	5.67%	7.39%	8.93%	15.07%	10.08%
経済経営学専攻	1.12%	1.19%	1.41%	4.61%	1.06%	3.57%	2.57%	1.61%
経済学部	2.80%	0.60%	2.58%	3.19%	0.53%	2.14%	1.84%	2.02%
その他	1.68%	0.30%	0.23%	0.35%	0.00%	0.00%	1.84%	1.61%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	357	335	426	282	379	280	272	248

特に大きな傾向の変化はなかった。

##### 設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
90%以上	85.07%	73.49%	78.17%	61.92%	69.35%	71.84%	88.55%	85.37%
89-70%	10.14%	14.76%	12.91%	23.13%	18.55%	12.64%	6.87%	8.54%
69-50%	1.41%	8.13%	4.46%	9.25%	4.84%	9.75%	2.67%	2.85%
49-20%	2.25%	2.71%	3.05%	1.78%	4.03%	3.25%	0.38%	1.22%
20%未満	1.41%	0.90%	1.41%	3.91%	3.23%	2.53%	1.53%	2.03%
計	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	355	332	426	281	372	279	262	246

2013年度までは出席率が低下傾向にあったが、90%以上出席した学生の割合は2014年度前期で88.55%、2014年度後期で85.37%と改善傾向にあることがわかる。これが短期的な改善なのか、持続的な改善につながるのかについては引き続き留意する必要がある。

##### 設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
5時間以上	2.51%	1.80%	4.48%	4.95%	5.84%	7.17%	4.10%	8.87%
4-5時間	2.51%	1.50%	1.42%	4.24%	4.24%	5.38%	2.61%	5.65%
3-4時間	8.66%	5.41%	5.19%	6.36%	6.63%	9.32%	4.85%	5.24%
2-3時間	9.78%	12.01%	12.03%	12.37%	14.32%	14.70%	14.93%	12.10%
1-2時間	31.84%	33.63%	36.79%	38.17%	35.54%	34.41%	32.46%	31.05%
1時間未満	44.69%	45.65%	40.09%	33.92%	33.42%	29.03%	41.04%	37.10%
計	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	358	333	424	283	377	279	268	248

講義の予習時間が「1時間未満」と回答した学生の割合は2014年前期が41.04%、2014年後期が37.10%であり、予習にあまり時間をかけない傾向にある。一方で、「4-5時間」または「5時間以上」と回答した学生の割合は2014年前期が6.71%、2014年後期が14.52%となっている。事例研究科目などでは予習の時間が多く必要になると推測される。近年では、前期よりも後期に予習が必要な科目が設置されているようである。

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
5時間以上	2.53%	2.10%	3.78%	3.18%	5.85%	6.05%	5.20%	8.84%
4-5時間	4.49%	1.80%	2.84%	3.53%	3.46%	4.63%	2.60%	5.62%
3-4時間	10.96%	6.89%	7.57%	4.95%	6.65%	10.68%	5.95%	7.23%
2-3時間	14.04%	13.17%	17.26%	17.67%	19.15%	17.79%	18.22%	12.85%
1-2時間	40.45%	44.61%	40.90%	44.17%	39.63%	38.79%	39.03%	36.14%
1時間未満	27.53%	31.44%	27.66%	26.50%	25.27%	22.06%	29.00%	29.32%
計	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	356	334	423	283	376	281	269	249

講義の復習時間が「1-2時間」と回答した学生の割合は2014年前期が39.03%、2014年後期が36.14%であり、「1時間未満」と回答した学生の割合は2014年前期が29.00%、2014年後期が29.32%である。2時間未満の学生が大半を占めるのはこれまでの傾向とかわらない。予習にあまり時間をかける必要がない講義科目などでも復習には十分な時間を確保する必要があると考えるため、改善の必要があるかもしれない。

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
5時間以上	7.32%	10.18%	8.29%	10.36%	9.07%	23.38%	10.37%	16.05%
4-5時間	8.45%	6.29%	8.06%	5.00%	7.73%	5.40%	5.19%	10.70%
3-4時間	17.46%	10.18%	14.45%	12.50%	16.27%	13.67%	9.63%	11.93%
2-3時間	17.46%	22.75%	18.72%	22.86%	22.40%	20.50%	22.96%	11.11%
1-2時間	28.73%	28.74%	29.62%	31.79%	27.73%	19.42%	29.26%	23.87%
1時間未満	20.56%	21.56%	20.85%	17.50%	16.80%	17.63%	22.59%	26.34%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	355	333	422	280	375	278	270	243

宿題については、科目ごとによってその質、量が異なることから、一律に評価を行うことはできない。しかし、宿題にかける時間が「1-2時間」または「1時間未満」と回答した学生の割合は2014年前期が51.85%、2014年後期が50.21%であり、もう少し宿題等の課題を与える必要があるかもしれない。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
理解できた	29.89%	28.14%	29.83%	29.33%	37.57%	42.29%	37.55%	38.15%
ほぼ理解できた	46.50%	46.11%	46.06%	42.05%	40.48%	38.71%	42.01%	46.99%
どちらともいえない	19.89%	21.86%	18.62%	20.85%	18.52%	14.70%	17.47%	12.45%
あまり理解できなかった	4.20%	3.29%	4.30%	5.65%	2.65%	3.23%	2.97%	2.41%
理解できなかった	1.12%	0.60%	1.19%	2.12%	0.79%	1.08%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	357	334	419	283	378	279	269	249

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合は、2014年前期が79.56%、2014年後期が85.14%であり、講義内容を理解できた学生の割合が大半を占めることがわかる。前年度に引き続き高い水準であり、この水準を維持する必要があると考えられる。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
適切	56.15%	56.42%	56.24%	49.29%	65.87%	68.21%	75.00%	76.71%
ほぼ適切	29.89%	28.66%	27.76%	32.27%	23.81%	23.21%	19.40%	16.47%
どちらともいえない	10.89%	11.94%	13.18%	15.60%	8.73%	7.14%	4.85%	6.43%
やや不適切	2.51%	2.69%	2.12%	1.06%	1.32%	0.71%	0.75%	0.40%
不適切	0.56%	0.30%	0.71%	1.77%	0.26%	0.71%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	358	335	425	282	378	280	268	249

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は2014年前期が94.40%、2014年後期が93.18%となっており、過年度と同様に、講義の難易度は適切に設定されているものと評価できる。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
十分	65.08%	68.17%	66.82%	67.38%	73.47%	80.29%	80.44%	86.35%
ほぼ十分	23.46%	21.02%	18.96%	22.70%	20.42%	16.85%	13.28%	10.44%
どちらともいえない	6.70%	7.21%	10.90%	8.16%	5.57%	2.51%	5.17%	2.01%
やや不十分	3.07%	1.80%	2.13%	1.06%	0.27%	0.36%	0.74%	0.40%
不十分	1.68%	1.80%	1.18%	0.71%	0.27%	0.00%	0.37%	0.80%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	358	333	422	282	377	279	271	249

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は 2014 年前期が 93.72%，2014 年後期が 96.79% となっており，前年度同様に非常に高い水準にあると考えられる．今後もこの水準を維持する必要がある．

設問 9：教員の説明や声量など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
良かった	62.57%	64.86%	60.90%	65.96%	76.72%	79.21%	77.78%	85.54%
まあまあ良かった	24.86%	23.72%	21.99%	20.21%	16.67%	15.77%	15.93%	11.65%
どちらともいえない	8.66%	8.41%	12.53%	7.09%	5.82%	5.02%	3.70%	2.41%
やや悪かった	3.07%	2.40%	3.07%	3.55%	0.53%	0.00%	1.48%	0.00%
悪かった	0.84%	0.60%	1.42%	3.19%	0.26%	0.00%	1.11%	0.40%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	358	333	423	282	378	279	270	249

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は 2014 年前期が 93.71%，2014 年後期が 97.19% となっており，前年度同様に非常に高い水準にあると考えられる．今後もこの水準を維持する必要がある．

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
適切	60.06%	56.16%	53.79%	56.74%	68.78%	78.21%	71.96%	82.33%
ほぼ適切	27.09%	27.93%	25.83%	26.95%	21.96%	16.79%	18.08%	14.86%
どちらともいえない	8.38%	12.01%	15.17%	10.28%	7.14%	5.00%	8.12%	2.41%
やや不適切	3.63%	3.30%	4.03%	4.61%	1.85%	0.00%	0.74%	0.40%
不適切	0.84%	0.60%	1.18%	1.42%	0.26%	0.00%	1.11%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	358	333	422	282	378	280	271	249

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は 2014 年前期が 90.04%，2014 年後期が 97.19% となっており，前年度同様に非常に高い水準にある．今後もこの水準を維持する必要がある．

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
適切	59.10%	58.43%	59.72%	52.48%	66.14%	76.43%	74.07%	79.52%
ほぼ適切	25.49%	23.19%	21.33%	32.27%	25.93%	15.36%	18.15%	15.66%
どちらともいえない	11.76%	15.96%	14.45%	12.06%	7.14%	7.14%	5.19%	3.61%
やや不適切	1.96%	1.51%	3.55%	1.77%	0.53%	1.07%	1.85%	1.20%
不適切	1.68%	0.90%	0.95%	1.42%	0.26%	0.00%	0.74%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	357	332	422	282	378	280	270	249

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は 2014 年前期が 92.22%，2014 年後期が 95.18% となっており，前年度同様に非常に高い水準にある．成績評価は GPA による評価の基礎となっており，適切に行う必要がある．ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており，今後もこれを維持する必要があると思われる．

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
役に立った	49.16%	43.54%	46.45%	44.33%	57.41%	67.50%	67.16%	72.18%
まあまあ役に立った	26.12%	25.53%	27.49%	36.17%	31.48%	22.14%	18.45%	20.56%
どちらともいえない	19.38%	22.52%	19.19%	14.18%	8.99%	9.64%	9.96%	5.65%
あまり役に立たなかった	3.65%	6.01%	5.45%	4.26%	1.32%	0.71%	1.48%	0.81%
役に立たなかった	1.69%	2.40%	1.42%	1.06%	0.79%	0.00%	2.95%	0.81%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	356	333	422	282	378	280	271	248

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は2014年前期が85.61%，2014年後期が92.74%となっており，前年度同様に高い水準を維持している．今後もこの水準を維持する必要がある．

設問 13：総合的に見て，この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
評価できる	61.52%	59.46%	58.39%	56.74%	72.22%	77.14%	77.49%	83.53%
まあまあ評価できる	28.37%	27.03%	25.06%	25.18%	22.22%	19.64%	16.61%	13.65%
どちらともいえない	6.18%	8.41%	13.48%	13.12%	4.76%	2.86%	3.32%	1.61%
あまり評価できない	3.37%	2.70%	1.65%	3.90%	0.79%	0.36%	1.11%	0.40%
評価できない	0.56%	2.40%	1.42%	1.06%	0.00%	0.00%	1.48%	0.80%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	356	333	423	282	378	280	271	249

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」と回答した学生の割合は2014年前期が94.10%，2014年後期が97.18%となっており，前年度同様に非常に高い水準となっている．総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため，今後もこの水準を維持する必要がある．

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
役立つ	44.82%	44.88%	39.29%	32.98%	52.25%	54.64%	61.94%	62.35%
まあまあ役に立つ	24.93%	26.81%	22.38%	27.30%	25.20%	23.93%	20.90%	15.38%
どちらともいえない	20.73%	17.77%	27.86%	24.11%	15.38%	14.29%	11.19%	14.98%
あまり役に立たない	4.20%	5.72%	6.67%	6.03%	3.45%	3.21%	3.36%	4.86%
役に立たない	5.32%	4.82%	3.81%	9.57%	3.71%	3.93%	2.61%	2.43%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	357	332	420	282	377	280	268	247

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は2014年前期が82.84%，2014年後期が77.73%となっている．受験に直接的に関連する科目ばかりではないが，多くの学生は公認会計士試験に役立つと考えているようである．この傾向は過年度から変化はない．

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期
役立つ	50.00%	55.45%	53.32%	48.39%	58.02%	65.23%	72.01%	77.24%
まあまあ役に立つ	29.94%	28.48%	29.62%	30.11%	25.94%	25.81%	19.40%	17.48%
どちらともいえない	15.82%	13.33%	12.56%	15.41%	12.83%	6.81%	6.34%	3.25%
あまり役に立たない	2.54%	1.82%	3.32%	3.58%	2.14%	1.43%	0.75%	0.81%
役に立たない	1.69%	0.91%	1.18%	2.51%	1.07%	0.72%	1.49%	1.22%
計	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	354	330	422	279	374	279	268	246

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生は2014年前期が91.41%，2014年後期が94.72%となっており，前年度と同様に高い水準を維持している．

#### 4.5. 自己評価と今後の課題

ここでは、本節で扱っている「授業アンケート」の結果について自己評価を行い、今後の課題を検討する。

##### 4.5.1. 学生の学習（設問2から5）について

学生が予習や復習にかかる時間は多くない。事前に準備が必要な事例研究のような科目なのか、それとも復習が十分に必要で講義科目なのか、科目の性質によって時間配分のバランスは異なるものの、一般的には予習あるいは復習のいずれかで学習時間を確保する必要があると考える。アンケート結果からは平均的には予習にも復習にも時間をかけているとは考えられない。宿題等にかかる時間の少なさを考慮すれば、復習が必要となるような講義科目において課題の量などを見直す必要があると考えられる。

##### 4.5.2. 教員への評価（設問6から13）について

今年度のアンケート結果からも、教員への評価は高い水準にあることが確認された。教員のいっそうの創意工夫や新任教員への指導体制の確保（ノウハウの伝達）を徹底し、高い水準を維持する努力を継続する必要がある。

##### 4.5.3. 講義の内容（設問14, 15）について

講義内容についても概ね高い評価を受けていると考える。公認会計士試験の受験の観点からも、また将来のキャリアの観点からも、講義内容が役に立つと考える学生が多数であった。教員はシラバスを毎年見直しており、講義内容の更新を絶えず行っている。こうした努力が高い評価につながったと考えられる。また、学生にはシラバスを熟読した上で講義1回目のガイダンスに参加してもらっており、事前に講義内容を適切に把握しているといえる。その意味ではシラバスが果たす役割が大きく、シラバスの更新等には今後も注力する必要があると考えられる。

#### 4.6. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

全般として授業について大きな問題はなかったことから、個々にコメントはしないが、(1) 学生が主体的に参加できる工夫を行っている講義に対してはポジティブな意見が多いこと、(2) 具体例をあげて説明することで学生の理解が深まること、(3) 課題等の量や頻度に気を配ることにより計画的な学習が可能であることなどが全体的な傾向としてあるように思われる。

## 5. 結び

以上、2014年度に関する授業・カリキュラムに関するアンケートに関する評価・分析について述べてきた。アンケートの結果を踏まえると、本会計大学院の授業やカリキュラムの優れた点や改善すべき点などは概ね過年度の分析結果と同様であるといえよう。これまでの授業・カリキュラムに関するアンケート結果なども踏まえて、2015年度には大幅なカリキュラム改編が実施されている。この改編が学生からどのように評価されているのかを分析するためにも、継続して授業・カリキュラムに関するアンケート等を実施する必要がある。

最後になるが、アンケートに真摯に取り組んでくれた学生各位に感謝するとともに、在學生にはさらなる充実した大学院生活を送り、希望の進路を進めることを、そして卒業生には様々なフィールドで活躍できることを希望している。



資料1：2014年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2014年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2014年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2014年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めず回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2014年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	7	30.43%
	公認会計士コース(1年)	13	56.52%
	会計リサーチコース	3	13.04%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	23	100%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	15	65%
	ほぼ適切である	4	17%
	どちらともいえない	2	9%
	やや不適切である	2	9%
	不適切である	0	0%
	合計	23	100%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	11	48%
	ほぼ適切である	5	22%
	どちらともいえない	4	17%
	やや不適切である	2	9%
	不適切である	1	4%
	合計	23	100%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	5	22%
	4回または3回	3	13%
	2回	1	4%
	1回	5	22%
	利用しなかった	9	39%
	合計	23	100%
設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	16	70%
	まあまあ役に立った	5	22%
	どちらともいえない	1	4%
	あまり役に立たなかった	0	0%
	役に立たなかった	1	4%
	合計	23	100%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	12	52%
	ほぼ適切である	1	4%
	どちらともいえない	6	26%
	やや不適切である	3	13%
	不適切である	1	4%
	合計	23	100%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	6	27%
	4-5時間	4	18%
	3-4時間	4	18%
	1-3時間	3	14%
	1時間未満	5	23%
	合計	22	100%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	14	61%
	まあまあ役に立った	5	22%
	どちらともいえない	3	13%
	あまり役に立たなかった	1	4%
	役に立たなかった	0	0%
	合計	23	100%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	11	48%
	まだ決めていない	5	22%
	考えていない	7	30%
	合計	23	100%
設問10 OB会について	賛成	20	87%
	反対	1	4%
	分からない	2	9%
	合計	23	100%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2014年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	74	29.84%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	213	85.54%
	公認会計士コース(1年)	136	54.84%		ほぼ十分	29	11.65%
	会計リサーチコース	25	10.08%		どちらともいえない	6	2.41%
	経済経営学専攻	4	1.61%		やや不十分	0	0.00%
	経済学部	5	2.02%		不十分	1	0.40%
	その他	4	1.61%		合計	249	100.00%
合計		248	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	205	82.33%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	210	85.37%		ほぼ適切	37	14.86%
	89-70%	21	8.54%		どちらともいえない	6	2.41%
	69-50%	7	2.85%		やや不適切	1	0.40%
	49-20%	3	1.22%		不適切	0	0.00%
	20%未満	5	2.03%	合計	249	100.00%	
合計		246	100.00%	設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	198	79.52%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	22	8.87%		ほぼ適切	39	15.66%
	4-5時間	14	5.65%		どちらともいえない	9	3.61%
	3-4時間	13	5.24%		やや不適切	3	1.20%
	2-3時間	30	12.10%		不適切	0	0.00%
	1-2時間	77	31.05%	合計	249	100.00%	
1時間未満	92	37.10%	合計		248	100.00%	
合計		248	100.00%	設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	179	72.18%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	22	8.84%		まあまあ役に立った	51	20.56%
	4-5時間	14	5.62%		どちらともいえない	14	5.65%
	3-4時間	18	7.23%		あまり役に立たなかった	2	0.81%
	2-3時間	32	12.85%		役に立たなかった	2	0.81%
	1-2時間	90	36.14%	合計	248	100.00%	
1時間未満	73	29.32%	設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	208	83.53%	
合計		249		100.00%	まあまあ評価できる	34	13.65%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	39		16.05%	どちらともいえない	4	1.61%
	4-5時間	26		10.70%	あまり評価できない	1	0.40%
	3-4時間	29		11.93%	評価できない	2	0.80%
	2-3時間	27	11.11%	合計	249	100.00%	
	1-2時間	58	23.87%	設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	154	62.35%
1時間未満	64	26.34%	まあまあ役に立つ		38	15.38%	
合計		243	100.00%		どちらともいえない	37	14.98%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	95	38.15%		あまり役に立たない	12	4.86%
	ほぼ理解できた	117	46.99%		役に立たない	6	2.43%
	どちらともいえない	31	12.45%	合計	247	100.00%	
	あまり理解できなかった	6	2.41%	設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	190	77.24%
	理解できなかった	0	0.00%		まあまあ役に立つ	43	17.48%
合計		249	100.00%		どちらともいえない	8	3.25%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	191	76.71%		あまり役に立たない	2	0.81%
	ほぼ適切	41	16.47%		役に立たない	3	1.22%
	どちらともいえない	16	6.43%	合計	246	100.00%	
	やや不適切	1	0.40%	設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	税理士会計科目	43	13.87%
	不適切	0	0.00%		公認会計士短答式	38	12.26%
合計		249	100.00%		日商簿記1級	54	17.42%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	215	86.35%		日商簿記2級	119	38.39%
	ほぼ十分	26	10.44%		その他	15	4.84%
	どちらともいえない	5	2.01%		何も無い	41	13.23%
	やや不十分	1	0.40%	合計	310	100.00%	
	不十分	2	0.80%				
	合計	249	100.00%				

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2014 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	米谷 健司
委員	青木 雅明
委員	高橋 美穂子

会計大学院アンケート実施報告書 2014 年度後期

2015 年 5 月 13 日発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会